

生徒のICT活用力向上で、生徒会の活性化を図る

～自主性を高める生徒会の取組みを通して～

世羅町立世羅西中学校

〒729-6711
広島県世羅郡世羅町黒川144-4

<http://www.edu.town.sera.hiroshima.jp/seranishi-jhs/>

1. はじめに

世羅西中学校では、過疎地における生徒数減少に歯止めをかけるため、学校中期目標では魅力的な学校づくりの学校改革を掲げ、2年前からは、校訓「自主・自律・創造」のもとに、生徒の自主性の育成に力を注いでいる。特に昨年、「7つの習慣」を柱として学校教育に取り組み、生徒会本部を中心に生徒の「自主性」の向上が顕著に見られるようになってきた。

平成24年度に実施される町指定の公開研究会において、生徒がICTを活用して「自主性を高める生徒会の取組み」を発表する機会を設け、この事業の成果を公開し、少子高齢化の進む地域に元気を届けたいという願いを持って研究を開始した。

2. 研究の目的

生徒の自主性をさらに高めていくために、ICTが積極的に活用できる教育環境づくりを推進していきたい。これまで生徒会本部の生徒は、手書きによる模造紙や生徒会新聞を使って情報発信をしてきた。生徒会新聞だけでも1年間に、70号近く発行してきた。手作業だけに、生徒たちはかなりの時間と労力を費やしてきた。情報を伝達するとき、効率的な時間の使い方ができ、さらにICTを効果的に活用してプレゼンテーション力を高めることができるようになれば、生徒の自信と自主性を向上させ、生徒会の一層の活性化を図ることができる。

この事業を通して、生徒がICTを活用したコミュニケーション力を身につけ、その有効性を実感することで、生徒会活動以外にも、積極的にICTを活用しようとする意欲と態度を育てていくことができる。

授業では、技術・家庭科の限られた時間枠の中で、パソコン教室を使ってわずかな情報教育を行っている状況である。この事業を通して、生徒のICT活用力向上を図るとともに、どの教科においても積極的にICTを活用した授業を展開できるようにしていきたい。

3. 研究の方法

- 生徒会活動において、ICTを活用できる場面で、極力活用することで、生徒会活動における作業の効率化を推進する。

○ICTを活用できる教科から積極的にICTを使った授業を展開し、公開する機会を増やすことで、より多くの教師にICTを活用した授業の有効性を認知してもらう。

○生徒が、ICTを活用して発表する機会を増やすことで自信をつけさせ、大勢の場でも発揮できるプレゼンテーション力を培う機会を設ける。

4. 研究の内容

(1) これまで生徒会本部役員が手分けをして、すべて手書きで作成してきた生徒会新聞をパソコンで作成できるように、生徒会室のICT環境整備を行うとともに、パソコンを使った新聞作成ができる能力を育成する。

(2) 全校朝会や、各種委員会、「ひろしま学びのサイクル」説明会、伝統芸能継承活動など多くの取組みにおいて、生徒会が主体的に進めている。これらの取組みの中で、紙媒体ではなく電子黒板などのICTを活用させることで、より効率的・効果的に発表や説明を行うことができることを生徒に学ばせる。

(3) 技術・家庭科以外でICTを活用して授業を行っているのは一部の教科に限られている。電子黒板は、どの教科においても使いやすく、大変有効な授業のツールとなるものだ。今後、国語・数学・英語・理科・社会等でもICTを活用した授業づくりができるように活用範囲を広げていきたい。本年度、まず数学科でICTを活用した研究授業を計画し、推進する。

(4) 本年度、町指定の「せらにし教育公開研究会」において、ICTを活用しての「自主性を高める生徒会の取組み」を生徒が発表することで、この事業の成果を町内外に公開していく。

5. 研究の経過

(1) 生徒会新聞をパソコンで作成・発行

これまで手書きであった生徒会新聞をパソコンでの作成に切り替えた。そのための環境整備を行い、生徒会本部室へパソコンとプリンタを設置した。技術・家庭科の授業以外でパソコンを使用する機会がほとんどないので、パソコンで作成することは思った以上に時間がかかった。

(2) 全校朝会や、各種委員会や各活動におけるICTの活用

これらの取組みにおいて、紙媒体の代りに電子黒板などのICTを活用させようとしたが、活用するための研修時間を確保することが難しかった。生徒会本部の生徒を中心に、生徒達は、昼休憩や放課後の時間も様々な活動や業務に追われており、当初予定していた研修の時間が取れず、活用できる範囲が限定されたものになった。

子ども議会の計画・準備や、生徒会合宿での協議、修学旅行報告会での発表などでは、パソコンやパワーポイントなどのICTを活用できた。

(3) 数学科でのICTを活用した研究授業の計画・推進

本校の全ての教師もこの事業を機にICTを活用した授業に取り組んでいきたいと考えた。これまで本校では、技術・家庭科以外でICTを活用して授業を行っているのは一部の教科に限られていた。電子黒板や教材提示装置などは、どの教科においても使いやすく、大変有効な授業のツールとなるものだという事を教師に理解してもらいたかった。特に、国語・数学・英語・理科・社会等でもIC

Tを活用した授業づくりができるように活用範囲を広げていきたかった。本年度、まず数学科でICTを活用した研究授業を計画し、推進してきた。

まず、電子黒板を購入してまもなく、ICTの使用を得意としている本校教頭に、専門の理科の授業において、ICTを活用したモデル授業を行ってもらった。教師と生徒の反応は、大変衝撃的であり、強烈な動機づけの機会になった。

数学科では、日常的にICTが活用できるように、電子教科書を購入した。電子教科書を使ったICTの授業は、数学科の教師にとっては、大変すぐれた授業ツールとなっていった。また、生徒の授業への集中力と理解力は高まり、このツールなしでは授業展開が考えられないくらいになった。

10月に行ったICTを使った数学の研究授業は大変好評であり、研究授業後には、他校の教師も含めて、教員へのICT活用法の研修も開催し、ICT活用の魅力に対して多くの質問がなされた。

(4) 公開研究会において、ICTを活用した「自主性を高める生徒会の取組み」の発表

本年度11月16日に開催する、町指定の「せらにし教育公開研究会」において、ICTを活用した「自主性を高める生徒会の取組み」を生徒が発表することで、この事業の成果を町内外に公開していくことをねらって、取組みを進めていった。

生徒の自主性の発揮は、予想以上に高いものとなり、「日本一の自主的な生徒会を目指して」と題して、パワーポイントを使っての生徒会本部によるプレゼンテーションは、参加者に感動を与えるものとなった。



また、この時の公開研究授業では、数学の授業公開において、電子教科書を活用した授業が、参加者に大きな反響を与えた。

(5) 各教科におけるICTを活用した授業実践の広がり

数学科で取り組んできたICTを活用した授業実践は、他教科へ予想以上に広がっていった。国語科、習字、理科、保健体育科、美術科、特活等の授業において、実施されることとなった。また、通常学級だけにとどまらず、特別支援学級の授業においても活用された。教科の特性に合わせて、電子黒板、教材提示装置、プロジェクター、DVD、パワーポイント、電子教科書など様々なICTが活用されるようになった。

6. 教科・領域・生徒会における具体的なICT活用事例

【理科】

7月19日(木)に、3年生理科の授業で電子黒板を初めて使ってのICT活用の研究授業を行った。授業は、理科が専門の教頭が行った。電子黒板、書画カメラなどを使用し、頭で考えるだけではなく、

目で見て理解し、意欲的に発表する授業となり、参観した本校教員もICTの効果に驚きを隠せなかった。

【数学】

数学は、ほとんどの授業で電子教科書を使って授業展開し、電子黒板活用法に熟達している。

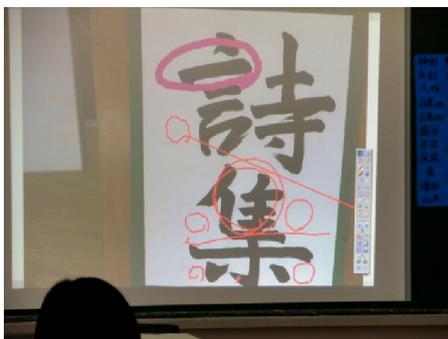
10月12日（金）に、せらにし教育研究会の合同研修会があり、数学の授業研究を行った。公開した授業では、パナソニックの助成金で購入した電子教科書や、電子黒板説明用にワードで作った自作ファイルを使った。授業の導入では、方程式の解き方を、てんびんの関係から考えていった。生徒は集中して課題によく取り組み、自分の考えを、電子黒板を使って交流し、考えをより確かなものにしていくことができた。参加者からも、できれば自校でも電子黒板を活用したいという声があがっていた。

11月16日（金）の町指定の公開研究会の数学では、ICT機器を使った授業を行った。ともなつて変わる数量関係を見つけ出し、それがどんな関数になるのかを説明していくというものだった。会場が小学校の特別教室で、黒板が使えないということで、白い壁を電子黒板にした。そして、生徒のワークシートを書画カメラで映して、考え方を説明させた。生徒は、電子ペンでの説明にも慣れてきており、書き込みながら説明できた。生徒のICT活用能力も少しずつ高まってきている。

電子教科書の活用は、通常学級だけでなく特別支援学級でも行っている。特別支援学級の生徒の反応は大変よく、集中して授業に取り組み、目で見て理解して考え、それを発表することなどができており、ICTの活用の効果を実感している。今後、特別支援学級でのICT活用の幅を広げていきたいと考えている。

【習字】

10月から、2年生書写の授業でICTを活用している。この日は、文化発表会に向けて書写の展示作品に取り組んだ。ICTを活用し、文字の配置や行書のバランスを確認しながら、どうすれば正しく書けるのかということを思考していった。書いたものを書画カメラで映し出し、大きな画面で確認できることで、修正のポイントが明確になった。書き直した作品はとても良くなった。また、自分の作品が画面に映し出されたときの生徒たちの表情が、嬉しそうであった。



【国語】

11月22日（木）に、広島県国語教育研究大会が世羅中学校で行われた。世羅西中学校からは1年生が参加し、授業を公開した。「流氷と私たちの暮らし」（説明文）のプレゼンテーションシートを作成し、電子黒板と書画カメラを活用して、作成の意図や使った資料の根拠などを論理的に説明した。また、各班が作成したシートを比較する場面では、ポイントを絞った練り合いも見られた。いつもと

は違う教室で、多くの参観者に囲まれての授業であったが、物怖じすることなく、いつもと全く変わらない授業態度であった。授業後、参観者からは学ぶ姿勢を高く評価していただいた。

【体育】

12月17日、「LIVEで全校ダンス」に初めて挑戦した。模範映像と生徒のライブ映像を体育館の舞台の大スクリーンに、二重に投映しながら全校ダンスに取り組んだ。生徒達はリズムに大いについて踊ることができ、楽しく有意義な体育の授業となった。

【保健】

10月10日（水）に、世羅郡の小・中保健体育部会研修があり、本校の保健体育科教諭が授業を行った。資料提示を効果的にしようと、パワーポイントを使った。生徒たちは、パワーポイントで提示されるグラフの特徴を分析したり、スライドショーのアニメーションを見て、考察する内容を確認したりした。生徒はみんな集中して授業に参加し、自分の考えを積極的にグループで出し合い、全体で交流することができた。

【美術】

3年生美術の授業では日常的にテレビを使用し、書画カメラを使って参考作品を写したり、パワーポイントで説明をしたりしている。直接視覚に訴えることのできるICT機器は、視覚芸術の教科である美術科では、とても効果的である。書画カメラを使用することにより、作品の一部分を拡大することや、目の前で制作の実演をすることができる。そのため、口頭だけでの説明より理解しやすく、映しだしたものを参考にすることにより、生徒の制作がスムーズに進むようになった。鑑賞の授業にも、制作の導入やまとめにも効果的に利用できるため、今後も様々な場面で活用していく予定である。

【特活】

10月31日（水）に、1年生学級活動でICTを活用して歯の健康教育を行った。授業では、歯科衛生士が歯周病の原因や予防について、また、養護教諭が生徒の歯科検診の実態について、担任がまとめを行った。パワーポイントを使用することにより、内容を視覚に訴えることができるため、大変理解しやすく効果的であった。口腔内の細菌（ミュータンス菌など）についての学習は動画を使用し、頭で考えるだけでなく、目で見て理解し、意欲的に学ぶ授業となった。今後は、健康教育においても様々な内容で、ICTの活用をしていきたい。

【生徒会】

11月16日（金）に、町指定の「せらにし教育公開研究会」の全体会において、生徒会執行部の9名がICTを活用しての発表を、大勢の参加者の前で自信を持って行った。発表テーマは「日本一の自主的な生徒会を目指して」という内容で、自主性を高める「学びの7か条」「レベル5のあいさつ」「自問清掃」などの取組み、相乗効果を発揮させる「明神の舞」「運動会」などの取組みについて発表した。夏休みに行った生徒会執行部合宿から準備を進めてきた内容を、ここまでに練り上げ、練習にも時間を重ね、堂々とした態度の素晴らしい発表となった。

2月23日（土）～24日（日）に、国立三瓶青少年交流の家において、生徒会執行部がリーダー育成研修を行い、電子黒板をしっかりと活用した。1泊2日の生徒会執行部合宿では、リーダーシップ研修・スキル研修を行い、5月15日の生徒総会までの日程と役割について協議を進め、細かい計画を立てることができた。

7. 研究の成果と今後の課題

【研究の成果】

- (1) 生徒がICTを活用することで、生徒会活動の効率化を図り、生徒の自主性が高まった。
- (2) 生徒のプレゼンテーション能力が向上し、生徒の自信を育み、生徒会が一層活性化した。
- (3) 事業を通して、教師のICT活用力も向上し、授業で活用しようとする意欲が向上した。

【今後の課題】

- (1) 生徒がICTを活用して、全校朝会や生徒集会の場で継続的に発表する場面を計画し、資料の作成方法やプレゼンテーションのやり方についての研修を深める。
- (2) 地域安全マップ作り等、「総合的な学習の時間」の他の活動でも積極的にICTを活用する機会を検討し、生徒のICT活用力を育成する。
- (3) 今回、生徒総会資料、修学旅行しおり、委員会報告資料等をパソコンで作成することができたので、さらに毎年改善を図っていくようにする。
- (4) 教育公開研究会では、今後も継続して、ICTを使っての生徒の発表を取り入れ、発表内容や方法の改善を図る。
- (5) ICTの活用で、資料作成での時間短縮を図り、さらなる生徒会活動内容の充実と改善を図っていく。
- (6) 教員に頼らずにICTを使って資料を作り、生徒の自主性と自己肯定感の一層の向上を図っていけるように計画する。
- (7) 教師がICTを活用した効果的な授業展開ができるように、ICT活用方法の研修会を開催して、活用力向上を図っていく。
- (8) 授業において、教師が生徒と一緒にICTを活用した双方向型の授業づくりの開発を推進していく。

8. おわりに

このたび、パナソニックの一般助成を受けることができ、本校の教員はICTの活用による効果の大きさに驚いている。今後、ICTを活用した授業改善が加速的に推進されることは間違いない。ICTを活用した効果的な授業づくりに、学校全体で取り組める体制ができあがったので、町内外含めてICTの活用の普及と推進を図っていきたい。